



COLLECTION EXHIBITION

戦前期広島の前衛精神  
同時開催：伝統と革新—児玉希望展にちなんで

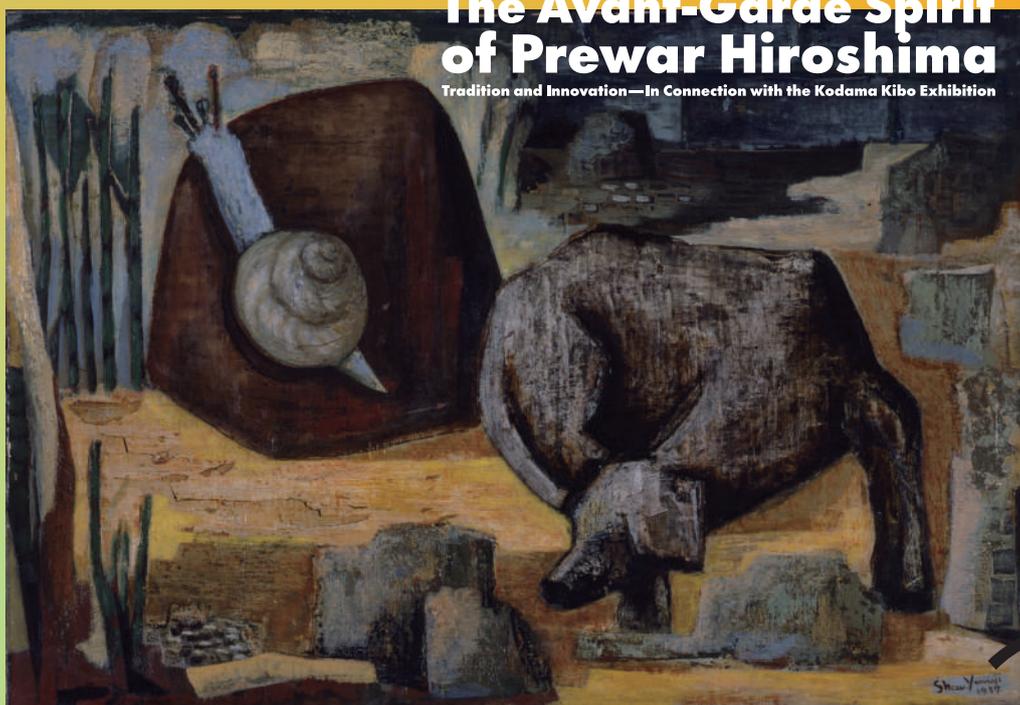
山路商

COLLECTION FOCUS

YAMAJI SHO

The Avant-Garde Spirit of Prewar Hiroshima

Tradition and Innovation—In Connection with the Kodama Kibo Exhibition



山路商 (犬と猫) 1937 (昭和12)年 広島県立美術館蔵

所蔵作品展 第

2024 10/11 (金) ▶ 12/24 (火)

【開館時間】9:00～17:00 ※金曜日は19時まで開館 ※入場は閉館の30分前まで  
【休館日】10月28日(月)、12月2日(月)、9日(月)、16日(月) 【閉室日】11月18日(月)  
【入館料】一般510(410)円／大学生310(250)円 ※( )内は20名以上の団体  
【縮景園共通券】一般610円／大学生350円 ※特別展は別料金  
◎高校生以下無料 ◎当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。  
◎障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階総合受付でお申し出ください)。

フリー  
トークデー  
12/7 (土)  
自由に感想を話しながら  
展覧会を楽しもう!

期

広島県立美術館 2階展示室  
Hiroshima Prefectural Art Museum

〒730-0014 広島市中区上蔵町2-22  
tel.082-221-6246 fax.082-223-1444

<https://www.hpam.jp/>



## 【概要】

### 所蔵作品展 第3期 コレクション・フォーカス

#### 「山路商－戦前期広島の前衛精神」、「伝統と革新－児玉希望展にちなんで」

1968（昭和 43）年に開館した広島県立美術館は、1996（平成 8）年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。

当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数約 5,200 点を有しています。

さて、今期の所蔵作品展は、本県ゆかりの巨匠を一望できる「ウェルカムギャラリー」とコレクション・フォーカス「山路商－戦前期広島の前衛精神」、「伝統と革新－児玉希望展にちなんで」の 3 本立てとし、当館コレクションを新たな視点でご紹介いたします。

皆さまに感想をお書きいただき交流できるコーナーや対話型鑑賞会、Instagram のライブ配信といった関連イベントも開催しつつ、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。また、今期もフリートークデーを実施いたします。

ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心とんでいただける展示をめざし、努力を重ねてまいります。今後の当館の活動にもご期待ください。

## 【第 1 展示室】

### コレクション・フォーカス「山路商－戦前期広島の前衛精神」I 山路商と同時代の作家たち

当館では、「コレクション・フォーカス」と題して、お勧めの作家や作品に焦点を当てた特集展示を開催しています。このたびは、大正末期から昭和戦前期にかけて活躍した広島洋画家・山路商（<sup>やまじしやう</sup>1903・明治 36－1944・昭和 19）の没後 80 年を機に、館蔵品に借用作品を交えてご紹介する特別企画。山路作品とともに、交友のあった作家の作品や資料を 2 つの展示室にわたって展観し、画業とその生きた時代を振り返ります。

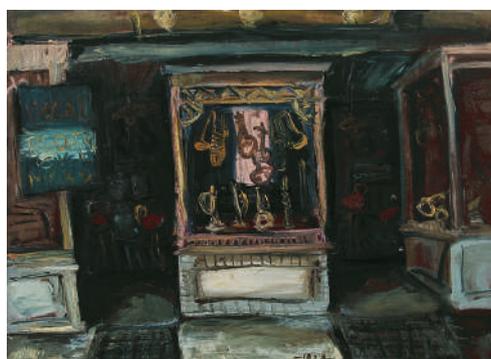
この展示室では、シュルレアリスム（超現実主義）運動に参加し、山路が影響を受けたと伝わるサルバドール・ダリとジャン・アルプを導入とし、広島<sup>あいみつ</sup>の友人画家の作品をご紹介します。山路と同じくシュルレアリスムの表現により画業に新境地を開いた<sup>あいみつ</sup>鬘光をはじめ、岩岡貞美<sup>いわおかさだみ</sup>、田中万吉<sup>たなかまんきち</sup>、辻潔<sup>つじよし</sup>、檜山武夫<sup>ひやまたけお</sup>、檜山美雄<sup>ひやまよしお</sup>、福井芳郎<sup>ふくいよしろう</sup>、松井正<sup>まついしょう</sup>、吉岡一の戦前<sup>よしおかはじめ</sup>作や木村武男<sup>きむらたけお</sup>らの山路の肖像、さらには山路との共作と伝わる灰谷正夫<sup>はいたにまさお</sup>の静物画も展示します。広島<sup>あいみつ</sup>の芸術文化運動の前衛たちの聖地と称された山路アトリエの仲間たちの作品をどうぞごゆっくりご覧ください。

## 【第2展示室】

### コレクション・フォーカス「山路商－戦前期広島の<sup>あいみつ</sup>前衛精神」II 山路商の創作活動

新潟県に生まれた山路商（1903・明治36－1944・昭和19）は、中国東北部で少年期を送り、大連の洋画研究所に学びました。1920（大正9）年に広島に移住し、絵画制作を中心に詩や舞台装置、美術批評など幅広い分野で活躍。先進的な美術動向に関心を持ち、1930年代後半にはシュルレアリスムを<sup>そ</sup>咀嚼<sup>しゃく</sup>した独創的で密度の高い作品を生み出すなど、戦前期の広島における前衛美術運動の象徴的な存在として知られています。その前衛的な活動ゆえに、1941（昭和16）年に特別高等警察に検挙され作品も押収されたほか、戦中戦後の混乱期を経て現存する作品は決して多くはありませんが、画家の前衛精神と探究心が生んだ造形力に満ちた作品は、時代を経ても色褪せることなく今なお多くの人々を魅了し続けています。

この展示室では、稀少な現存作品と詩友さかもと<sup>よねだえいさく</sup>ひさし、米田栄作の関連資料により、広島絵画史に



山路商《楽器店》1928年 三良坂平和美術館蔵



山路商《ソビエツ領事館の裏》1931年 広島県立美術館蔵

独自の足跡を残した画家の活動の軌跡をたどります。開催に当たり、貴重な作品をご出品いただきました所蔵家の皆さま、またご協力くださいました関係者の皆さまに、心より感謝の意を表します。

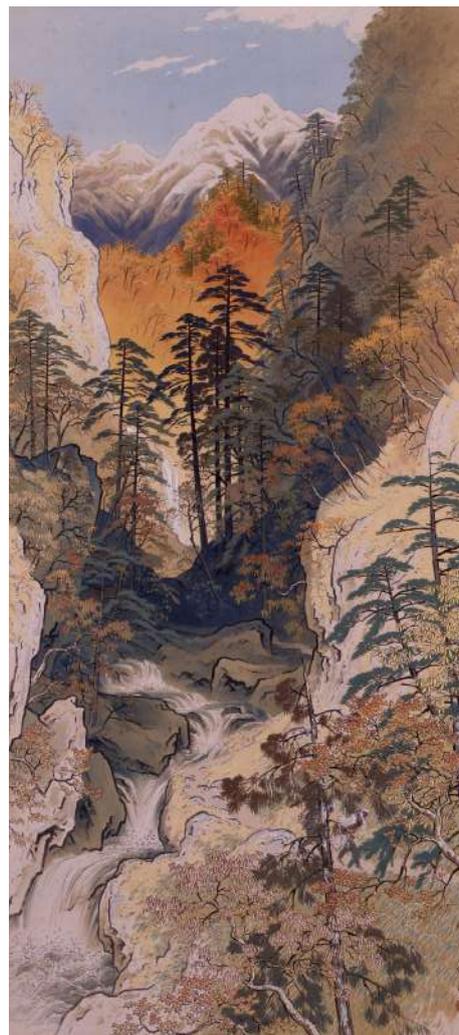
### 【第3展示室】

伝統と革新—児玉希望展にちなんで  
江戸時代からつながる日本画の系譜、そして革新

この展示室では、<sup>こだま きぼう</sup>児玉希望を中心に、日本画の伝統と革新のありようをご覧ください。

まず、江戸時代から京都で活動した画家の家系で、児玉希望へつながる望月派に注目します。希望の師、<sup>かわいぎょくどう</sup>川合玉堂は東京で橋本雅邦に狩野派を学ぶ前には、<sup>はしもとがほう</sup>京都で望月派四代の望月玉泉にも学びました。当館が収集している望月派の初代、二代、四代の作品とあわせて、玉堂の作品《溪村春麓図》、玉堂に学んだ希望の作品《溪谷の秋》を展示し、江戸時代から昭和戦前にかけて、この画系がどのような変化をたどったのかを眺めます。続いて希望による戦後の作品としてヨーロッパから帰国後、抽象の度合いを強めた作品《群棲》《ひざさり》や、希望と同じく戦後を生きた広島県の画家である丸木位里、<sup>まるきいり</sup>船田玉樹 <sup>ふなだぎょくじゅ</sup>の作品を展示します。戦前に描かれた《溪谷の秋》や玉堂、望月派の作品と見比べてみるのもよいでしょう。このほか希望によるヨーロッパ滞在時、帰国後のスケッチも紹介します。

江戸時代から昭和戦後まで、児玉希望を中心とする各作品を通して、時代の変化や雰囲気も感じ取ってくだされば幸いです。



児玉希望《溪谷の秋》1943年  
広島県立美術館蔵

## 【第4展示室】

### 伝統と革新—兎玉希望展にちなんで 近現代の漆芸にみる伝統と革新

この展示室では、「伝統と革新」をテーマに近現代の漆芸作品をご紹介します。

漆うるしの木から採れる樹液を用いる漆芸は、この樹木が東アジアに特有の植物であることから、東洋独特の工芸として発展してきました。良質の漆液を産する日本でも古くから漆芸が行われ、その技術の成熟は江戸時代に頂点に達したといわれます。

近代になると、江戸時代の高い技術を受け継ぎながらも、新時代に適合した新たなデザインかじやまめいさいの漆器が見られるようになりました。海外輸出を意識したと考えられる梶山明細の《蒔絵やつで香筥こうばこ》では、デザインに加え、多用される色漆の使い方にも新しい感覚がうかがえるでしょう。

また、古典を深く研究し、自身の創作に取り入れる動きも出てきます。日本だけでなく中国漢代の漆器研究にも情熱を傾けた六角紫水ろっかくしすいの《理想界の図蒔絵手箱》では、図様の取り合わせや箱の形に、古典研究の成果と近代的な独創性が感じられます。

古典に学びながら、その時代にふさわしい作品を生み出そうとする姿勢はその後も続きます。まさに伝統と革新の両輪で発展してきた漆芸の歴史を感じていただければ幸いです。



六角紫水《理想界の図蒔絵手箱》1929年 広島県立美術館蔵

## 【ウェルカムギャラリー】

当館では、リニューアルオープン 25 周年を機に、新たな展示コーナーとしてウェルカムギャラリーを設けました。皆さまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいべき大理石に囲まれた展示室で、分かりやすい作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちをご紹介する動画を展示室の入口で上映しています。

本展では、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家のこばやしせん小林千古・みなみくんぞう南薫造・あいみつ巖光、日本画家のこだま きぼう児玉希望・おくだ げんそう奥田元宋・ひらやま いくお平山郁夫、彫刻家のひらくしてんちゆう平櫛田中・えんつば かつぞう圓鍔勝三、工芸作家のろっかく しすい六角紫水・しみず なんざん清水南山・いまい まさゆき今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードと合わせて、当館が誇る名品の数々をご覧ください。

また、1 階図書室では美術をテーマにしたマンガコーナーを設けるなど、多くの方々に美術に親しんでいただく場をご用意しています。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。





## 【関連イベント】

### ■美術講座「山路 商 - 時代と作品」

11月24日（日）13:30～14:30（開場 13:00）

場所：地階講堂

講師：藤崎 綾（当館主任学芸員）

※聴講無料 ※申込不要

### ■リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式で紹介するトークイベントです。

10月25日（金）15:00～（各室10分程度）

場所：2階展示室

講師：角田 新（当館主任学芸員）、藤崎 綾（当館主任学芸員）、  
隅川 明宏（当館主任学芸員）、岡地 智子（当館主任学芸員）

※要入館券、会場入口でお待ちください。

### ■インスタライブ配信

閉館後の展示室内からギャラリートークをライブ配信します（約15分間）。

①日本洋画 2024年10月29日（火）17:00～ 講師：角田 新、藤崎 綾（当館主任学芸員）

②日本洋画 2024年11月12日（火）17:00～ 講師：角田 新、藤崎 綾（当館主任学芸員）

③日本画 2024年11月19日（火）17:00～ 講師：隅川 明宏（当館主任学芸員）

④工芸 2024年12月10日（火）17:00～ 講師：岡地 智子（当館主任学芸員）

公式インスタグラムはこちら





## ■フリートークデー



2024年12月7日(土) 9:00～17:00

子供も大人も自由に感想を話しながら気兼ねなく展覧会を楽しんでいただけるよう、フリートークデーを試行的に実施。当日は各種イベントも併せて行います。

## ●対話によるギャラリートーク

13:00～14:00

所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなでお話しながら鑑賞します。

講師：山下 寿水（当館主任学芸員）

定員：8名

※事前申込制

※要入館券、2階展示室入口にお集まりください。

## ●作品を探しに行こう！

当館所蔵品の一部がプリントされた缶バッジを配布します。どの作品か、展示室に作品を探しに行こう。

先着：100名

※事前申込不要

※要入館券

## ■「山路 商ミニガイドブック」プレゼント

当展覧会に入場された方に、「山路 商ミニガイドブック」を提供します（数量限定）。

12月25日（水）から4月中旬まではLED化工事のため、  
2階所蔵作品展は休室します。3階特別展は予定通り開催します。

### 【媒体掲載用の画像提供について】

- ※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。
- ※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。
- ※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。
- ※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。
- ※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみでお願いします。（ボールペンなど使用不可）

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 山下寿水

総務課 広報担当 一色 直香

公式 SNS はこちらから

